

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	3	学 校 名	静岡県立稲取高等学校	校 長 名	森 泰博
------	---	-------	------------	-------	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	高い志を持ち、日々努力する姿勢を育むとともに、志望に応じた進路実現を図る。	「進路や将来の生き方についての考えが深まった」と答える生徒 90%	「進路や将来の生き方についての考えが深まった」と回答した生徒 94.6%であった。ガイダンスや進路だよりを通じて、進路について考えを深めることができた。	B	生徒と保護者の進路に対する理解に差がみられるため、来年度は、ガイダンスや進路だよりを通じて、その差を埋める工夫を研究していきたい。
イ	基礎学力の定着を図るとともに、ICTを活用する等、個別最適な学びの研究・実践をする。	「先生の授業がわかりやすい」と答える生徒 90%	生徒を対象とした授業評価アンケートで、「先生の授業がわかりやすい」と答えた生徒は 96.3%であった。各教科で、少人数指導、ICT活用等の研究ができた。	A	個々の生徒を見ると、学習習慣の確立はまだ十分とは言えない部分があり、個別最適化の学びについてや、主体的な学びについて研究していく必要がある。
ウ	豊かな人間性と人権意識の育成を図り、生徒が主体的・協働的に行動する教育活動を実践する。	「学校に居場所がある」と答える生徒 90%	「学校に居場所がある」生徒の割合は 95%と高い状況である。一部にはコミュニケーションがうまく取れなかったり、孤立傾向にある生徒もいるが、生徒同士でサポートし合う様子が伺える。	B	アンケートの結果では、95%という高い割合を維持しているが、すべての生徒が安心して学校生活を送れるよう、さらなる環境づくりに努めたい。
エ	基本的生活習慣を確立し、規範意識を醸成するとともに、たくましい心身を育成する。	「基本的生活習慣が改善された」と答える生徒 90%	挨拶や服装面などの生活習慣は良好な状態であるが、一部に規範意識が低く、周囲に迷惑をかけている自覚がない生徒もいる。	B	服装指導においては、生徒自身がルールを理解し、主体的に判断できるような環境づくりを目指していきたい。生徒同士が互いに高め合う指導の在り方についても研究を進めていきたい。
オ	生徒の安全意識の向上を図るとともに、安全・安心な教育環境を整備する。	防災講座で防災意識が高まった生徒 80%	防災講座や防災訓練後のアンケートによると、90%以上の生徒に防災意識の高まりが見られた。	A	学校での防災訓練にも積極的に取り組む様子が見受けられた。引き続き、高い防災意識を持てる指導を行っていきたい。
		「学校の施設設備は管理が行き届いている」と答える生徒 70%	教室や体育館などの不具合箇所等、教育活動に影響が出ないように安全状態が保たれるよう計画的に修繕を進めた。	B	改修を伴うような修繕は制度上既定予算では行えないため即時対応は難しいが、引き続き所管課への要望を続けていく。

様式第3号

カ	地域との連携を推進するとともに、地域・家庭への積極的な情報発信を図る。	「本校では地域との連携が積極的に行われている」と答える生徒・保護者 90%	地域との連携が積極的であると回答した割合は、生徒が 96.6%、保護者が 81.6%であった。	B	授業、部活動、学校行事のいずれも、地域と積極的に連携している。この取り組みを継続していきたい。また、これらの活動について、保護者への発信にも努めていきたい。
		「情報発信を積極的に行っている」と答える保護者 80%	保護者を対象とした学校評価アンケートでは、80%以上の保護者が該当項目について『当てはまる』と回答した。	A	SNS 等を活用して、積極的な情報発信に努めていきたい。また、地域の 50 歳以上の方々への情報発信についても研究を進めていきたい。
キ	勤務時間管理に対する教員の意識を高め、効率的な学校運営を目指す。	長時間勤務者の削減と健康管理の徹底	職員アンケートにおいて、『働きやすい職場である』という設問には、全職員が肯定的な回答をした。しかし、勤務時間に関する数値を見ると、改善の進みは鈍い。	C	来年度は、より成果のある取り組みを進めることで、勤務時間の削減を目指したい。